

### ◇ 第Ⅲグレードの到達目標 / 5～6歳児対象

ピグマリオン学育研究所

5～6歳児で人間的基礎能力のすべてが基礎的な完成をします。双葉より芳しいです。(幼児とは、幼稚園児のことではありません。8歳児(小2～3)までは、人格的・能力的には幼児と同じです。)

	能力の種類	到達目標、指導の方法
1	◇指先能力	ちょうちょ結びができ、お箸で大豆をつまめるようには、必ずなっていて下さい。また、はじめての折り紙を、お手本をみながら、自分で折れるようになって下さい。その他切り絵工作などの、指先を使う創造的遊びが好きな子どもになってほしいものです。
2	◇図形能力	百人が百人とも違ったように見えているこの空間を、ユークリッド空間的にみえるように指導してきました。つまり、身に付いていれば、3つの座標軸、前後・左右・上下の座標軸をもって、この三次元空間を把握できる能力の育成が終わったのです。
3	◇基本知力	指先能力の完全な完成、空間の三次元的把握能力の完成は、現実を観察する力を正確にします。正しく観察されたものが、正しく考える基礎となり、正しい判断・思考・創造を生みます。それは、正しく関わること、関係をもつこと、生きることにつながります。
4	◇数能力	6歳児で、1万までの加減暗算能力は確実に育ちますが、このカリキュラムでは、1～100までの加減暗算能力の育成を目標としています。手や目で数えたり筆算も教えなければ、指や基本知力が普通の発達をしていれば、90%以上の確率でどの子にも目標は達成できます。
5	◇社会性	社会性とは、社会的性格のことです。上記の能力が十分に発達していれば、落ち着いた穏やかな、他者のことを考えられる子どもになります。つまり、他者と一緒に生きて行ける能力が育ちます。指が動かない子、2～3次元空間能力の低い子の社会性は低いと言えます。